

# 令和元年度 第1回地方独立行政法人京都市産業技術研究所

## 評価委員会 会議録

日時：令和元年8月20日（火）午後4時～午後5時30分

場所：京都市産業技術研究所 大ホール

議題：（1）委員長の選出及び委員長代理者の指名

（2）平成30年度の業務実績評価について

議事要旨：

### 【1 開 会】

- ・事務局からの挨拶等

### 【2 議 題】

#### （1）委員長の選出及び委員長代理者の指名

- ・柿野委員を委員長として選出。
- ・柿野委員長が辻委員を委員長代理に指名。

#### （2）平成30年度の業務実績評価について

～事務局から評価の流れの説明～

～京都市から資料1・2で評価案の説明～

- ・以下、各委員の質問・意見など （○：委員，●：京都市，◎：産技研 と表記）

○：京都市の案について、御意見・御質問はあるか。

○：法人の自己評価がAであるにも関わらず、京都市がB評価としている研究会活動は、具体的にどういう指摘か。

●：京都市の評価をBとしている理由については、資料1の17ページ下部には、「若手経営者の加入も見られる一方、後継者不足や業界の縮小など、京都経済における環境の変化に伴い、会員数が漸減し続けていること、そして研究会の更なる活性化に向け、各々の研究会がより質を重視した魅力的な研究会活動を展開するとともに、研究会間の横断的活動を強化すること

で、新たな会員獲得と、異業種が持つ技術の融合による新商品の共同開発や新事業の創出を促進することを期待する」と記載させていただいている。この研究会の活動は非常に素晴らしいものであるが、今後の会員数の増加と内容の充実・連携についての期待を込めて、評価をBとさせていただいた。

- ：過去の会員数の変化はどんなものか。
- ：平成28年度末が810名、平成29年度末が785名、平成30年度末が770名と少しずつ減少している状況である。
- ：減少している理由や背景は何かあるか。
- ◎：この5年間で870名から770名まで減少しているが、染色関係が50名、陶磁器関係が30名と伝統産業関係の分野で合計80名減少している。現在、伝統産業分野はどこも厳しいが、業界の母体が減少しているという状況である。  
一方で、セラミックフォーラムやめっき関係等の新たな産業分野については増加している。  
西陣の研究会については横ばいである。
- ：染色や陶磁器業界は厳しい。
- ◎：伝統産業分野は、事業承継等で減少傾向にあるが、例えば、陶磁器研究会においては、検討委員会を作り、若手の参加を増やす取組等を進めている。今後も、ものづくり協力会等としっかりと情報共有を行い、取り組んで参る。
- ◎：研究会活動は、会員に対するサービスをどれだけ提供出来るかで、研究会を開催した時の参加数が決まってくる。そのため、分野ごとに研究会を開催するのではなく、分野を超えた横断的な交流が生まれるように意識している。  
産技研という組織が出来た時に、意識的に分野を横断して研究交流をするように努めてきたが、ようやくそれが実を結びつつある。  
今後は、研究会活動にもその視点を取り入れながら活性化していきたい。
- ：他に意見はあるか。

- ：私は、昭和26年に発足した京都合成樹脂研究会に所属しており、先代から産技研にお世話になっている。地方独立行政法人になり、働いている職員の意識が変わったと思う。それは我々にとっても、研究会にとっても良いことである。京都というのは、伝統と革新の分野で、日本の中でも非常に活発な地域であるので、この地の利を生かしていただきたい。
- 評価がBとなっている「研究会活動」については、会員数を増やすことも大事だが、会員がどこまで積極的に研究会に関わってもらえるかということについても課題になってくると思う。各研究会で意識を高く持ち、積極的に関わってもらえる方が一人二人いるだけで、研究会は変わると思う。将来を見据えた中で、主体的に取り組んでもらえる人の掘り起こしも課題として取り組んでほしい。
- ：他に意見はあるか。
- ：評価Bとなっている「研究会活動」について、後継者不足が中小企業の中で大きな問題となっており、事業承継をどのように進めていくかが課題になっている。
- 資料14ページにもあるとおり、若手経営者のプラス加入もあるが、マイナスも多いという現状が確かにある。縮小となっていく業界もあるし、後継者がいないため辞めざるを得ないという会社も多いと思う。
- マッチングや異業種交流を通して、後継者を増加することが出来れば良いと思うので、評価（案）の中に、会員数の増加や会員数の獲得というコメントがあるが、会員数の減少を防ぐという点もコメントに入れて欲しい。
- ：法人と京都市では評価の仕方が若干違う。京都市では、大項目でS評価や小項目で5段階評価の5や1が付けられるのに対し、法人はS評価や5段階評価は付けられない。
- それを前提として、もし法人でS評価や5段階評価が可能であれば、もう少し京都市に評価して欲しかったという点はあるか。
- ◎：六本柱の取組に力を入れているが、技術相談については、過去最高の14,054件となった点が挙げられる。
- 技術相談の具体的な事例としては、めっき業者の方がカドミウムを検出され、人体に危険があるのではないかと産技研に技術相談をされた。産技研が測定をしたところ、まだ基準値以下であったということで、操業停止が解除できたという事例がある。

更には、金属加工業者に対する技術指導の提案の中で、不良品だったものを正規の製品として出荷が可能になり、不良品を回収しなくて済んだという事例もある。

このような一つ一つの取組を積み重ねて、技術相談件数が法人化以降過去最高となり、更に満足度も非常に高くなっている。産技研は中小企業の下支えの機関であるので、しっかりとした取組が出来ているのではないかと考えている。

- ：事例にあつためっき業者や金属加工業者は、いずれも産技研の尽力がなければ、倒産や廃業の可能性があつたが、技術相談を経て、企業にとって良い結果を生んだと思う。
- ：「京の華」の酵母を広く他府県に売り込んでいくことは考えていないのか。
- ◎：毎年新たな酵母を開発しており、伏見酒造組合とも連携し、取り組んでいるところではあるが、御指摘いただいたように、もう少し販売戦略については検討して参りたい。
- ：クラウドファンディング等も活用すれば、販路が開けるのではないか。
- ◎：酒の酵母は京都の業界においては非常に大事なものである。育んできた長い歴史の中で、経済効果も非常に大きいものであるので、もっと宣伝に力を入れていきたい。
- ◎：伝統的に公設試では、酒の酵母を提供しているが、産技研が初めて「京の華」というネーミングを付けた。酵母の開発は、ビジネスモデルを考えながら、10年計画で取り組んでいる。  
研究者でありながら、世の中の流れを良く見て、他の研究グループの力を借りつつ、開発に取り組んでいることは高く評価すべきだと思う。  
一昨年の10月に産技研が科学研究費補助金に応募出来るようになった。地方独立法人化した際に申請したが、全滅した。今年度は7件中2件採択された。全国の国立大学の平均値が3割なので、その平均値にほぼ近い採択率を達成できたことは、小さなことではあるが、評価すべきであると考えている。

- ：科研費の申請については、研究員が自主的に申請しているのか。それとも、組織として後押ししているのか。
- ◎：科研費の採択率を高める工夫が必要であるが、申請して採択された経験者は私と、一昨年に阪大から来てくれた研究員の2人しかいない。一昨年も昨年も7人全員の申請書を見て、アドバイスした。打率は高まってきていると思う。
- ：今後とも、よろしく願います。
- ：評価（案）の19ページにあるが、産技研アドバイザーとして5名の方に就任いただいている。アドバイザーの狙いと実際にどのような活動をしていただいているのか教えて欲しい。
- ◎：大嶋氏については、研究の最終出口を意識し、知財的な考え方を取り入れた研究の仕方について、研究員を対象にセミナーや職員研修を実施していただいている。
- 金谷氏については、ものづくりをする際に、どういう人にどういうものを作るのかという取っ掛かりの部分についてアドバイスを受けている。職員研修や、研究会に所属する企業対象の相談会等を行っていただいている。
- 菊池氏については、商品の魅せ方やアピールの仕方、クラウドファンディングの利用についてアドバイスをいただいている。若手のものづくりの担い手を対象としたセミナーを行っていただいている。
- 鈴鹿氏については、現状お休み中であるが、日本の和の文化や伝統と革新といった精神的な部分や製品についての意見を伺っていく予定である。
- 竹内氏については、KBSの報道キャスターであり、PRや情報発信についてのアドバイスをいただいている。研究員の苦手な部分である多様な情報発信の仕方について、意識の醸成をいただいている。
- ：業界の個々の事業者がアドバイザーに常に相談をできる環境なのか。
- ◎：本来、どのような状況でも常にアドバイスを受けられる状態にするのが理想であるが、現状は、セミナー等で相談の機会を設け、時間の制約もあるので、何社に限定して相談会を行っている。日々の技術指導等を行う中でも、アドバイザーを活用できる部分は活用していきたい。

- ：他に意見はあるか。
- ：門川市長から、「府市協調」という言葉を良く聞くが、研究開発に関して、府と市は差別化をしていくのか。府市協調で、どのような戦略で実施していくのか。
- ◎：行政においても、府市協調で連携を行っているところである。研究については、この地区内に、京都府中小企業支援センターがある。  
例えば、長年の歴史の中で、お酒の酵母関係の開発については京都市、味噌等の麹関係の開発については京都府といった、何となくの棲み分けは行っている。また、依頼試験においては、京都市では研究員が素材を扱って調査するのに対し、京都府では依頼者が機械を使用して分析をしている点で、差別化をしている。  
あくまでも「face to face」が大事だと思うので、どちらも利用しやすいという部分をベースとし、得意技を生かし、意見交換を行っている。
- ：財務内容については全てA評価ということで、決算報告書を見ると、自己収入が増加している。予算に対して、収入は約400万円少ないが、支出は7700万節約出来ているという点で、大変尽力いただいていると思う。その結果、平成30年度の利益が8000万と、優良な成績を残され、大変素晴らしいと思う。  
自己収入が増えることで、運営費交付金が減らないようにしてもらいたい。  
もう1点、「情報発信の強化」という点で、メールマガジンの登録者数が目標を上回っている。産技研に直接かかわる人の登録者数が増えているかと思うが、産技研のことを良く知らない一般市民や子どもたちにも広くアピールが出来るようなものを作っていただきたい。
- ：他に意見はあるか。
- ：京都で会社を長年やっているが、産技研のことを全く知らなかった。これだけ良い取組をされているのだから、新聞やポスター、回覧板等で、もう少しPRをして広めていくべきだと思う。
- ：産技研としても、マスコミにリリース等は多くされ、新聞に取り上げられているようであるが。

- ：目に留まらないと意味がない。  
広告でも良いので，目に留まる工夫をして欲しい。
  
- ：他に意見はあるか。なければ，時間となったので，これにて議題は終了とする。本日いただいた意見を踏まえて，京都市と委員長の私で相談の上，最終的な全体評価を確定する。
  
- ：本日いただいた意見を踏まえて，文章に対する御指摘も含めて整理し，最終的に京都市長の評価としてまとめ，産技研に示すとともに，9月市会に報告する。

【閉会の挨拶】